

本殿

現在の本殿は、1778年に再建されており、五間流造（正面の柱間が五間ある神社の建築様式）で九州を代表する大規模な本殿建築です。2004年、国の重要文化財に指定されました。

本殿右側の壁には、日本最初の天皇の兄であり、荒神鬼八を退治したとされる、三毛入野命の地元伝説を描いた彫刻があります。伝説では、三毛入野命は、弟が天皇になった後、故郷の高千穂を治めるために戻ってきたと信じられています。それから村人に恐れられていた暴君鬼八を退治しました。さらに鬼八を三つに切り、この地域で別々の場所に埋めました。また、鬼八に捕らえられていた鵜目姫を助け、結婚し、二神は8人の御子をお生みになりました。

高千穂地域では、三毛入野命は、山に住む村人に悪行を働いてきた荒神と長く戦い平らげたので、農産業・厄祓の神として考えられています。三毛入野命、その伝説と彼の家族は、高千穂神社で深く敬慕されています。